

看護あきた

Nursing Akita

Vol. 107

平成23年度 4号

- 1 シリーズ看護部長が看護の思いを語る
- 2 シリーズ認定看護師 こまち紹介
- 3 認定看護管理者制度 ファーストレベル教育課程
- 5 認定看護管理者制度 セカンドレベル教育課程
- 6 看護師等職場体験研修報告
- 7 訪問看護管理者研修報告
- 8 訪問看護師養成講習会
- 9 一般教育研修報告
- 10 衛星通信対応研修
- 10 助産師活用講習会報告
- 11 看護職員再就業促進事業
- 12 看護職員の多様な勤務形態導入研修
- 13 各地区活動報告
- 14 シリーズ在宅看護
- 15 事務局からのお知らせ

秋田県看護協会会報

平成23年度会員数
(最終)

6,770名

保健師	281名
助産師	314名
看護師	5,848名
准看護師	327名



平成22年度
セカンドレベル研修
修了生
フォローアップ研修



看護部長が看護の思いを語る



前列中央 看護部長の佐々木さん

No.
4

秋田県成人病医療センター
看護部長

佐々木久美子さん

強
み
は
チ
ー
ム
ワ
ー
ク

秋田県成人病医療センターは秋田市の中心部に位置し、心疾患の三次救急医療施設として24時間の緊急医療に対応する役割を担っています。また地域医療支援病院として全県の登録医療機関と連携した医療、看護の提供に力を注いでいます。

平成23年度は東北沖地震の続く中、スタートしました。長年、看護部を支えてくださった部長、副部長が定年退職なされ戸惑いながら新年度を迎えた私たちにとって、今回の災害は文字通り、チームワークを試された出来事でもありました。当院の強みはまさにチームワーク、いざというときに普段隠れている底力を見せてくれます。多くの局面も、想像力、柔軟性、そして他者に依存しない強さで乗り切ってくれました。

しかし、普段は隠れてしまう底力、その「潜在能力を発揮できるような看護の実践現場を作り上げていく」それが今の私の目標でもあります。

私は、昨年までICNとして、現場で感染管理、安全管理の仕事に携わっていました。

今年度より看護部長となり、組織の中での自分の位置づけに戸惑う毎日でした。しかし、参加したある研修で「部長はダイレクションのプロ、明かりを照らし続け方向づける人」という言葉に戸惑いが消えました。組織はピラミッドではなくコマ、そして部長はコマの軸、回りにマネジメントのプロである副部長、師長がおり、アシスタントマネージャーの主任、クリニカルのプロのスタッフがいます。それぞれがプロとして役割を果たし支援し合える限りコマは回り続けることができる、そんな組織でありたいと考えます。

今年度、看護部の事業計画で最も力を入れたのが、「看護職員の人材確保と定着化対策の促進」でした。看護協会の「多様な勤務形態導入、ワークライフバランスの推進」の研修会後、スタッフや採用者のニーズを確認しながら勤務形態を考慮した結果、退職率の低下、雇用の促進をはかることができました。個々の事情で退職を余儀なくされる方もいますが、少しでも働き続けられるよう、変化に対応できる柔軟な発想をもち職場環境の改善に努め続けたいと考えています。

来年度、看護部では「看護の質向上に向けた取り組み」を最重点施策として掲げました。

いま、病院が公益法人化、新築に向けて大きく踏み出そうとしている中、看護部では専門病院として高度な医療に対応できる看護師の育成を目標に、専門領域の院内研修の充実、院外研修参加の推進、そして学習に邁進できる職場環境の整備に力を入れています。

同時に師長たちは、成長していくスタッフたちに背中を見せ続けられるよう自らも努力しつつ、スタッフ一人ひとりが輝いて働き続けられるよう、積極的な支援に力を注いでいます。



「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんを紹介します。

富野 江里子さん

こまち File No.17

外旭川病院
緩和ケア認定看護師

今取り組んでいること

当院は秋田県内唯一のホスピス病棟を有する病院です。ホスピス病棟ベッド数は全34床で、内21床を担当する病棟にあります。入院される患者さんの疾患・背景は多岐にわたります。そのため私はスタッフと共に、患者さんが抱えている全人的苦痛について検討し、アセスメントに基づいた症状緩和やケアを実践しています。またご家族も患者さん同様に多くの苦痛を抱えており、少しでも不安なく患者さんと共に過ごせるよう、ご家族へのケアもチーム全体で日々検討しております。

皆と一緒にがんばりたいと思っています

患者さん、ご家族と共に歩む毎日、様々な出来事に遭遇します。笑

いや涙、時には怒りという感情もあります。そして常に死という現実にも向き合っています。私はスタッフが抱える思いや体験を言葉にしてもらい皆で共有し、自己の気付きやケアの再考の場となれるような空間・時間を定期的に設けることを心がける他、さまざまなケアに関する研修会を企画しスタッフと共にスキルアップ向上に努めております。



若松 主子さん

こまち File No.18

大館市立総合病院
感染管理認定看護師

今取り組んでいること

当院は病床数493床で、そのうち結核病床6床、感染症病床2床の第二種感染症指定医療機関です。現在、私は手術室に勤務し週に1日を感染対策の実践日として活動しています。

看護部と院内の感染対策委員会、感染対策チームに所属し、感染防止マニュアルの作成や看護師・看護補助者へ院内感染対策の研修会を行っています。また、医師、検査技師、薬剤師、事務の方々と一緒に院内の感染対策ラウンド等を行っています。

皆と一緒にがんばりたいと思っています

院内感染の発生頻度を調べて現状を知り、臨床現場の方々と一緒に感染対策を考えたいと思っています。また感染対策についての相談や研修会等も継続して行いたいと考えています。感染対策は日々変化し、何が正しく、何が問題か分かりにくい面があります。患者さんが、安心して治療や看護を受けられるよう、私自身も新しい情報や知識を得て、よりよい感染対策が行えるよう皆と一緒に頑張りたいと思っています。



認定看護管理者制度 ファーストレベル教育課程

教育目的

- 1 看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度の習得を目指す。
- 2 看護を提供するための組織化並びにその運営の責任の一端を担うために必要な知識・技術・態度の習得を目指す。
- 3 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析する能力の拡大を目指す。

実施内容

- 1 教育期間／平成23年5月20日～8月12日(150時間)
- 2 受講者数／29施設70名
- 3 受講者の職位／看護師長2名、副看護師長・相当職11名、主任・相当職34名、職位なし23名
- 4 講義についての学び・感想の一部紹介
 - 看護という職業は素晴らしいものであり、この仕事を続けている自分はやはり看護が好きなのだ振り返ることができた。
 - グループワークを通して、自分自身の気持ちに大きな変化があった。
 - 自分の立ち位置を見つめて、今まで自分が考えたこともなかったことを考えることができた。
 - 多くの中堅スタッフに、是非、本研修への受講を薦めたい。
 - 看護は人と人のつながりだと改めて感じ、つながるためには「話し合い」「分かち合い」「向き合い」続けることの大切さを学んだ。
 - 一旦、職場を離れ、自分の病棟を客観的にとらえることができた。
 - 「自分の言葉で書く」とはどういうことなのか、レポートの書き方を通して認識できた。
 - 専門職として、看護理論は実践に用いる知識であり、人材育成へと結びつくことを学んだ。
 - 「管理は管理者だけのものではない。看護そのものが管理なのだ。」ということを知り、この研修にきた意義を見出せた。
 - 「学ぶことは変わる」ということを学び、自分がく変わる」ということは、看護をさらに良いものにできると感じた。
 - 「目から鱗」の日々で、看護師になりたての清々しい気持ちになり、初心に戻ることができた。
 - 提出レポートのキーワードに多く登場したのは「組織」「情報」「実践」「評価」「連携」でした。
 - 研修で出会った仲間たちからたくさんの刺激と情報、励ましと努力する気持ちをもらい、共に学び成長できた。

受講者の感想

「たくさんの気づきをくれたファーストレベル」

認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程を受講し、看護師の志や使命感の高さを実感し、自分が看護師であることに誇りを持ち、今まで以上に看護が楽しくなった。そんな私の学びや気づきをまとめたいと思う。

秋田大学医学部附属病院
黒木さゆり



自分への刺激

始まって数日後「看護覚え書(ナイチンゲール)」「看護の基本となるもの(ヘンダーソン)」を読み返した。学生時代以来、看護師として12年間働いて一度も読んでことはなかった。私にもう一度読んでみようと思わせたのである。また、今まで何となく自分なりに解釈していた言葉を、辞書で引くという行動にとらせた。「自律と自立」「学修と学習」「協働」などを調べ、原点に戻り「看護」も調べた。私に「看護ってなんだろう」と考えるきっかけをくれた。看護ってなんだろう、看護の質ってなんだろうと思いつつ講義を受け、最後の最後に私に答えを与えてくれたファーストレベル教育課程の構成には感動した。

レポート課題からの大きな学び

研修期間中一番苦痛だったのはやはりレポート課題である。次から次と課せられるレポートと迫りくる提出期日に頭の中はレポートのことで一杯であった。終えてみて得たことが二つある。一つは期日までにレポートを完成させたという達成感と自信である。3ヶ月間ただ通い講義を受講するだけでは得られなかった気持ちだと思ふ。そしてもう一つは、私に考えるきっかけを与えてくれたということである。一番苦戦したのは看護情報論と保健医療福祉のレポートである。何故苦戦したのかというと、この二つのテーマについては今まで考えたこともなかったからである。例えば自分の看護観や現状分析に関してはこれまで考える機会もあり、それなりに自分の中で抱えているものもあった。しかし、看護情報と福祉に関しては一切考えたことのないテーマであり視点であった。レポートを完成させるた

めに考えて考えて吟味した時間はとても貴重であり、自分で考えたからこそ、今でも頭に残っており現場に活かしている。講義を聞いただけでは徐々に薄れていく知識であったと思う。レポート課題の目的は自分に考える機会を与えることなのだと私は思う。

今後への展望

研修初日「研修では看護管理についての答えはありません。ただしヒントは沢山あります。その中から皆さんが看護管理について気づくことです。」と聞いた。各講義の中には本当に沢山のヒントがあり気づかせてくれた。自分で気づいたことは、ただ学んだこと以上に私の胸に刻まれている。看護管理とは看護そのものであり、看護とは患者のために患者を満足させるために支援していくこと、といたってシンプルなのである。このシンプルな看護の原点は煩雑で複雑な看護実践の日々の中、ついつい忘れがちな部分なのではないだろうか。私は誰よりも患者を愛し、この原点を忘れずに、忙しい時こそこの原点を皆で思い出すことができるような看護師であり看護管理者でありたいと思う。

最後に

研修期間中は職場の上司・同僚の協力はもちろん、家族の協力・心の支えがとても大きく、ひとりでは達成できなかったと実感している。看護経験10年以上で中堅看護師となり周りには認定・専門看護師等自分の進むべき道を決める者が現れる中、自分は特に目指したいものもなく、ただただ日々の看護業務と家庭での生活・育児におわれていた。ファーストレベルを受けたことは自分のこれからの看護人生を考えるきっかけともなった。決して楽な日々ではなかったが、是非ファーストレベルを受けて良い刺激を受け、若かりし頃の志を思い出し、自分のこれからの看護人生を考えるきっかけになったらと思う。

まとめ

平成5年の開講から19年目を迎えました。今年度で1287名が修了しています。

次年度も多くの皆様の受講をお待ちしております。

～今後のご活躍を、心から期待しております～

専任教育担当 工藤 一子 記

第4期生

(平成22年度修了生)

セカンドレベル教育課程修了者

フォローアップ研修実践報告会

日 時／平成24年2月7日(火)午前9:30～16:00

場 所／看護センター 第一研修室

ねらい／認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程での学びを実践で活用している
状況を紹介しあい、マネジメント能力の更なる拡大をめざす。

参加者／平成22年度修了者29名

聴講者／平成23年度受講者7名

受講者の感想(一部紹介)

- セカンドレベルの修了生が力を合わせて秋田県の看護のために尽くしたい。
- セカンドチームのネットワークを、今後も大切にして情報交換したい。
- セカンドレベル受講後、組織をしっかりとつくることと人材育成に取り組んだ。
- 研修受講した時と職場は変わったけれど、セカンドで学んだことは日々の看護実践の糧になった。
- 報告会に向けてのレポートをまとめるにあたって、日々の看護実践を振り返る機会になり刺激になった。
- フォローアップ研修実践報告会に参加し、仲間話を聞いて、また頑張ろうと思った。

聴講生の声

- 先輩の報告を聞いて刺激になった。自分たちも来年の報告に向けての実践計画書作成のヒントを得ることができ、とてもよい収穫だった。

セカンドレベル受講しての学びを、日々の看護実践に活かした成果について、熱く、熱く、語り、情報交換が展開された。

～今後の更なるご活躍を、心から期待しております～

専任教育担当 工藤 一子 記

セカンドレベル 教育課程 第5期生



平成23年度セカンドレベル教育課程修了者

教育目的

1. 保健・医療・福祉分野における看護組織の第一線監督者または中間管理者としての基本的役割を理解し、職責を果たすために必要な知識・技術・態度の習得を目指す。
2. 施設の理念ならびに看護部門の理念との整合性を図りながら担当部署の看護目標を設定し、その達成を目指し、看護管理過程が展開できる能力の拡大を目指す。
3. 地域特性を踏まえたヘルスケアサービスの現状を理解し、課題を見出すことができる。

教育期間

平成23年9月1日～11月30日

教育時間

180時間

受講者数

17施設24名

受講者の職位

副看護部長・相当職: 3名、看護師長: 12名、
副看護師長・相当職: 7名、主任・相当職: 2名

講義内容からの学びと感想の一部紹介

1 医療経済論

- 「在庫を見るとお金に見える」という講師の言葉にドキッとした。
- 病院を取り巻く環境の変化と病院経営、財務表の意味すること、BSCの運用について学んだ。
- 日本経済について、予算編成の成り立ちや増税する理由がわかった。
- Knowledge Management、「優秀な社員を辞めさせない方法」を学んだ。
- ディベートを体験して、ロジカル・シンキングから、自分が信じる意見を持つことの大切さを学んだ。

2 看護組織論

- あらためて、自施設の組織図や職務規程について見方や意味がわかった。
- 自分の看護副部長という役割と機能についてもやややっていたことが軽くなった。
- SWOT分析・クロス分析、BSCから、経営戦略を明確にし、戦略の成果を挙げたい。
- 「看護倫理とは、患者の幸せを探求するものである」の一言が身体の中にスーと入ってきた。
- 心が紐解かれ明日からまた頑張れそうだ。
- 目標管理を自己流で行っていたが、講義から何が重要で必要かをきちんと学ぶことができた。
- 看護研究に用いる測定尺度があることを知り、尺度を用いなければ学会にエントリーできないと感じた。
- 「外来から在宅看護が始まる」「患者を生活の場に帰す」ということの意味を改めて学んだ。

3 人的資源活用論

- 知識の整理と理論的にメッセージを伝えることを訓練できた。この訓練されたことが活かされ、組織が活性化するように関わりたい。
- 今まで一人で考えていた理想の教育指導を実現可能にするプログラム作りができた。
- 「人は城、人は石垣、人は塀、情けは味方なし」の実際を演習を通して学んだ。
- 「何になったかではなく、何をしたかで仕事の価値は決まる。」という講師の言葉が心に残った。
- 「一生懸命に打ち込んでいると、その姿に誰かが気づいてくれる人がいる。」という講師の言葉を支えに頑張っていこう。
- 「学ぶことは己を超えることである。」この講師からの言葉を忘れません。
- 「看護師のキャリアパスと助産師のキャリアパス」の構築に夢を語った。
- 「キャリアを大事にすることは、自分の人生を大事にすることと同じ」ということを学んだ。
- 看護管理コンサルテーションの基本を学んだ。

4 情報テクノロジー

- 情報科学の分野が「アメリカに遅れること20年」の現実を知った。
- 電子保存三原則(真正性・見読性・保存性)やOECDの8原則の重要性を知った。
- <コンピューターより賢いのは人間である。コンピューターは道具であり、目的ではない。>という意味が理解できた。
- 演習で最先端技術(電子タグ・ユビキタス点滴台など)を持つ秋田大学の取り組みを学び、見学できたことに感謝します。

まとめ

開講から5年目、今年度で141名の修了になります。平成24年度も多くの方の受講をお待ちしております。研修を通して、多くの学びをし、何にも代え難い、宝物を得たと思います。～今後のご活躍を、心から期待しております～

専任教育担当 工藤 一子 記

看護師等 職場体験 研修事業報告

看護師職能委員会 委員長
三浦ノリ子

看護師職能委員会が企画する『看護師等職場体験研修』は、平成15年から今年で9年目になります。毎年多くの参加希望者があり、受入内容に伴う施設側にもかなり幅を広げていただき、出来るだけ多くの方に参加して頂けるように検討を重ねております。

また、これは受け入れ施設の絶大なる協力支援のもとで成り立っている事業であり、協力施設には心から感謝と御礼を申し上げます。

当初、受け入れ施設は3施設から始まりましたが、その後病院に認定看護師が誕生して皮膚排泄ケア・感染管理・

体験研修内容	研修参加者数	研修受入病院
急性期看護	1人 1カ所	秋田赤十字病院
皮膚排泄ケア	4人 2カ所	仙北組合総合病院、由利組合総合病院
Peer Review	2人 1カ所	秋田社会保険病院
安全対策	4人 3カ所	市立秋田総合病院、秋田組合総合病院、秋田大学医学部附属病院
化学療法	3人 2カ所	秋田組合総合病院、秋田赤十字病院
感染管理	6人 4カ所	仙北組合総合病院、秋田大学医学部附属病院、由利組合総合病院、秋田赤十字病院
緩和ケア	3人 3カ所	秋田大学医学部附属病院、山本組合総合病院、秋田組合総合病院
手術看護	4人 2カ所	秋田大学医学部附属病院、市立秋田総合病院
認知症看護	2人 1カ所	雄勝中央病院
9テーマ	29人 延べ19病院	平成23年10/3～11/29までの延べ26日間実施

安全対策・急性期看護等々と「病院から病院へ」と他の施設を体験する傾向になりました。平成18年～21年の4年間、職場体験研修の参加者を対象に調査したところ、この研修の継続希望が100%であり、受入内容もニーズに伴い増やし、近年はpeer reviewや緩和ケア・化学療法・手術看護・そして認知症看護等も実施しています。今年度の内容から体験したお二人の成果と感想をご紹介します。

参加者感想レポート

北秋田市民病院

五代儀 明美さん

研修内容 Peer Review
研修先施設名 秋田社会保険病院

今回、33年目の看護師さんのPeer Reviewに参加させていただいた。糖尿病の患者への関わりについての発表だったが、質問のやり取りでその状況がさらに詳しくわかり、看護師がどんな気持ちで対応したか、どのように感じたか、現在はどのようにしているかなどさらに展開した状況がわかった。私が驚いたのは、局長がその看護師個人の事もよくみているのがよく伝わる内容だったことだ。行為の結果として、DM指導料のアップなどから日頃の評価もしており「いい看護をしている」と言われると、次もまた頑張ろうという気になるし、何歳になっても“褒められる”のはうれしいことだ。Peer Reviewを通して評価点の付け方がわからなかったので質問したが、そんなに難しく考えずにやってみるとよいとのことだった。評価を受けた後のチャレンジ目標も、今回の体験につなげていけるように導かれているように感じた。さらに、驚いたのは、同僚評価する人を選ぶのは発表者本人だそうだが、選ばれたスタッフはそれを受けて「うれしい」と言っていたことだ。日頃からの仕事ぶりをみていないと評価できないし、お互いの認め合う関係が羨ましかった。当院も中堅・年配の看護師の経験知と実践知をこのような形で積み重ねてもらい、生き生きと働いてもらいたいと思う。今回の研修を受けて、当院でも取り入れられるように動いてみようと思う。お忙しい中、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。ありがとうございました。(次年度当院の研修に佐々木局長さんをお願いしたいと思いました。)

介護老人保健施設かみの里

猪股 洋子さん

研修内容 皮膚排泄ケア
研修先施設名 由利組合総合病院

今回の研修の目的であった最新のスキン・排泄ケアを学ぶ、最新の医療・知識・技術に触れ習得するという2点について、認定看護師の武田師長から指導を頂き達成する事ができました。他職種との連携、患者への心配等、また、現在行っているスキンケアの改善点、褥瘡予防に向けての改善点など、今後に向けての指標が見えてきました。この研修で得た事を施設での看護、介護に取り入れて行きたいと思えます。忙しい中このような機会をいただきありがとうございます。

この事業の課題と抱負

診療報酬改定や病院での在院日数短縮で患者さんは施設や在宅での治療・介護を必要とせざるを得ない状況が多くなりました。切れ目の無い看護を提供する為にもお互いの働く環境を理解し、地域医療連携がうまくいくように、当協会は施設と施設を繋ぐ媒体となればと思います。

介護福祉施設で働く看護師の会員数は未だ少数ですが、この研修を機に会員の仲間を増やせる事を願います。今後も多数の参加をお待ちしております。

1. 目的

訪問看護事業所の管理者として訪問看護ケア技術の向上や安全管理、スタッフの人材管理を含む経営技術等について理解を深め、経営強化を図るとともに訪問看護の質の向上に必要な能力を身につける。

2. 研修日程

開催日:平成23年12月17日(土)、12月18日(日) 2日間(12時間)

3. 受講要件

- 1)訪問看護ステーション管理者および管理者の業務を補佐する者。これから看護管理者になる予定の者。
- 2)原則として全日程(2日間)受講可能であること。

4. 定員

40名

5. 会場

社団法人秋田県看護協会 5階第1研修室

6. 受講料

無 料

7. 内容

月日	時間	内容	講師
12月17日 (土)	9:30~12:30	在宅医療・訪問看護制度と動向	一般社団法人オフィス萩原 代表理事 萩原正子
	13:30~16:30	訪問看護ステーションでの人材育成と管理	
12月18日 (日)	9:30~12:30	訪問看護ステーションの実践的経営	アーセプト税理士法人 鈴木森 日本公認会計士協会準会員
	13:30~16:30	訪問看護ステーションにおける 基本的な経理と財務	

8. 結果

31名申込中、受講者27名、そのうち全課程修了者は27名だった。

アンケート結果(回収率89%)

- 訪問看護経験平均年数:7年2か月、訪問看護管理者経験平均年数:3年2か月
- この研修に期待すること(複数選択):訪問看護管理者としての資質向上16名、訪問看護の質向上20名、県内他施設の理解、他職場の人との交流がどちらも7名だった。
- 目標の達成について:達成できた、大体達成できたが合わせて23名、ほとんど達成できなかったが1名だった。
- 今後この研修を看護管理に生かすことができるかについては、全員が「はい」と答えていた。
- 意見感想:秋田県内の訪問看護ステーションのレベルアップを図るため、このような研修を継続的に企画してほしいと思った。

講義内容で印象に残ったこと、その他意見・感想について

- 平成24年のダブル改正により、訪問看護そのものの真価が問われてくると感じた。その中でステーションとして取り組むべきことや魅力あるスタッフの育成も重要となり、選ばれるステーションを作り上げていく必要があると感じた。
- これからの秋田の在宅医療はチーム医療全てが連携し、その人がその人らしく生活できるような援助がますます大切である。そのためには訪問看護師の役割を認識することが大切、思ったことを実践しなければ何も始まらない。あきらめないで工夫し、トライすることで成果がいつてくる。
- 電卓を使用する研修は最初は難しかったのですが、やっていくうちに自分たちの収支状況を改めて考え直す機会となり、とても参考になった。
- 数字を意識することの大切さを実感
- 簿記のレベルから順序立てて教えてもらって良かった。訪問看護についても知識があり、戦略的なところまで聞くことができた。
- 訪問看護は固定費が高いため、業績が少しでも下がるとダメージが大きい。

訪問看護師 養成講習会を終えて

1. 目的

- 1) 在宅ケアを必要とする人とその家族に対して質の高い看護を提供するために、地域の特性や生活状況をふまえ、最新の知識技術を習得する。
- 2) 在宅ケアチームの中での役割を認識し関係機関との連絡調整ができるような訪問看護従事者としての資質を育成する。

2. 実施内容

- 1) 開催期間・時間数:平成22年5月12日～9月7日(延べ26日間)・153時間
- 2) 受講者数 :20名(新規受講者;19名 継続受講者;1名)、 修了者数:20名

講習会終了日の
受講者の皆さん



まとめ

(受講者のアンケート結果から)

(1) 講習会に関する期待(複数回答)

内容	人数
訪問看護の知識習得	19名
介護保険・ケアマネジメントの知識習得	9名
実習による他施設の理解	8名
他の職場の人との交流	8名
その他	0名

(2) 目標の達成

内容	人数
達成できた	5名
だいたい達成できた	14名
ほとんど達成できなかった	0名
達成できなかった	0名
どちらともいえない	0名

(3) 今後の看護実践への活用

内容	人数
活かすことができる	19名
活かすことができない	0名
どちらともいえない	0名

(4) 講習会後の研修開催の希望

内容	人数
希望する	11名
希望しない	1名
その他	7名

今年度は20名の受講者で講習会を開催しました。全員が無事に修了できましたこともうれしい限りです。受講者にとって153時間の研修時間は、多くの出会いと刺激、気づきがあったように思います。

在宅医療が推進される中で、今後ますます訪問看護師の役割は重要視されてきます。在宅療養する利用者側の視点で必要な看護とは何かを学んでみませんか。

♥来年度は、「もう一度、あの講義を受けたい!!」「学んだ看護技術だが…、実は不安。」など、修了者の皆さまの声にもお応えしつつ、開催できるように考えています。

多くの皆さまの受講を来年度もお待ちしております。

平成23年度 一般教育研修

カテゴリー	テーマ数	受講決定者数	受講者総数
新人教育	2	247名	233名
ジェネラリスト教育	20	3391名	3189名
管理者・指導者育成のための教育	3	286名	264名
合計	25	3924名	3686名

今年度も多くの皆様にご参加いただき、一般教育研修会を開催できました。ありがとうございました。とくに申込代表者の皆さまには、年間を通じて研修申込の取りまとめ、受講決定通知の配布、研修(研修日含む)までのキャンセル・欠席等の連絡等々…。普段の看護業務に加え、私どもの研修にご支援とご協力をいただいておりますことに、心より深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

来年度の一般教育研修は、26テーマが予定されており、約3,500名の皆さまのご参加をお待ちしております。さらに、これとは別に、日本看護協会出版会の全国セミナーを2テーマ開催することが決まっております。県内の看護職が優先されますので、ご応募ください。



平成23年度 「一般教育研修」受講応募ランキング

順位	研修テーマ	定員	応募数
1位	退院支援における看護師の役割と実際	200名	395名
2位	誰にでもわかる・できる・ケアにつながる フィジカルアセスメント	120名	387名
3位	グリーフケア～家族の悲しみを癒す看護～	250名	271名
4位	シリーズがん看護 疼痛コントロールのための観察と看護のポイント	200名	259名
5位	シリーズがん看護 がん化学療法の基礎知識の理解と患者へのセルフケア支援	200名	235名

左記の研修には、定員数をはるかに超える応募をいただきました。ありがとうございました。応募数の多かった「退院支援」、「フィジカルアセスメント」に関連する研修は、次年度は全国看護セミナーと衛星通信研修を開催することで、受講の機会を増やしてみました。研修に対する皆さまのご関心の高さとニーズを強く感じ、できる限り望ましい研修開催ができるように、受け入れ人数の調整、会場の変更などをしながら、運営にあっている次第です。とくに応募数が多い場合は、施設内順位が優先的に適用されますので、受講を強く希望される方にはご周知いただき、施設内での調整もお願いしたいところです。

教育研修事業開催中、 お問い合わせの多かった ご意見、質問?!

Q 駐車場を何とかしてもらえないでしょうか?自己負担が厳しい。どこかに駐車スペースを確保してもらえないでしょうか?駐車券や割引券の発行等を考慮してもらえないでしょうか?

A 秋田県看護協会をご存じのとおり、財団法人秋田県総合保健事業団の秋田県総合保健センター5階にあります。センター内は事業団はじめ医師会、薬剤師会など多くの他団体で構成されています。

よって、駐車場、研修会場等も財団法人秋田県総合保健事業団から借用して事業を開催しております。駐車場の当協会割り当て分は数台に限られており、研修講師の駐車スペースを確保するのがやっとという現状です。

そこで皆様には、研修には公共交通機関をお使いいただくか、車で来る方は近隣の公営駐車場をご利用いただき、ご協力いただいております。

駐車スペースの確保は、様々な事業開催に際して皆さまから頂戴するご要望であり、今後は具体的にどのような解決策があるのか、その方向性を見出していきたくと考えております。

平成23年度

衛星通信対応研修

日本看護協会 神戸研修センター主催



	研修テーマ	開催日	定員	受講者数
1	災害医療と看護(基礎編)	H23.10月14・15日	60名	198名
2	看護管理者に役立つ法律・制度・経営のエッセンスと最新情報	H23.12月9・10日	60名	57名

S-QUE研究会 日本臨床看護マネジメント学会主催

	研修テーマ	開催日	定員	受講者数
1	看護必要度評価者院内指導者研修	H23.5月29日	60名	59名
2	看護必要度評価者院内指導者研修	H23.12月4日	60名	59名

今年度は、4つのテーマを受信し、研修会を開催しました。373名の皆さまに参加いただき、意義深い研修を開催することができました。受講者の皆さまの理解とご協力に深く感謝申し上げます。

次年度の開催テーマ・日程・申し込み方法等は、平成24年度教育計画冊子に掲載いたしますので、ぜひご覧ください。お申込みをお待ちしております♡

秋田県委託事業

平成23年度

助産師 活用講習会

報告

【研修のねらい】

超音波検査の見方を学び、母子の安全に関する保健指導に活用する。

【講師】秋田大学医学部生殖産達医学講座 准教授 小川 正樹氏 【委託元】秋田県 【主催】秋田県看護協会

【研修内容】 講義：超音波検査で診断できる疾患や、異常など超音波検査の見方、実際の保健指導への活かし方などについて
実技演習：ファントムを用いて超音波検査の実際を実技演習
グループワーク：母乳育児支援

【内容】参加者：14名

- 午前中の講義では超音波に関する総論・各論について解説があり、超音波の利点や欠点、有用性について、また助産師がどう活用してよいのかなど、実践への意欲につながる講義だった。
- 午後はグループ毎に分かれて、ファントムでの実技演習が行われ、一人一人胎児の計測方法等の指導。妊娠期、分娩期・産褥期における母乳栄養確立のための指導の現状について情報交換をした。

- 【研修のまとめ】
- 同じ職種でも、普段、交流の機会がなく、今回、20~50歳と幅広い年齢層の交流は、互いの知識やパワーを得るよい機会である。
 - 講師や研修内容への満足度が高く、次年度以降も同様の研修を望む意見が多い。
 - 研修成果を助産師が現場で発揮できるような医療現場の体制が整うまで、この研修を継続する意味は大きいと考える。

大館市立総合病院 助産師外来体験研修

開催日：平成23年12月19日、2月7日・20日
各3名が受講

研修
終了者

超音波はコミュニケーションツールの一つであり、ゆっくりとした時間で会話しながらお腹を触り、助産師の手のぬくもりを感じ取ってもらうことで、妊婦にとって心安らく時間となる。助産師としての知識や技術を最大限活用していた昔の産婆さんの原点を大切にしていると感じた。(12月19日研修報告より抜粋)

看護職員 再就業促進

事業報告

目的

保健・医療・福祉を取り巻く状況の変化により、看護職員の確保・定着が緊急の課題となっていることから、資格を持ちながら看護職員としての業務に従事していない潜在看護職員のうち、医療機関に再就業するため看護技術等を身に付けたいという意欲のある者に対し、病院での臨床実務研修等を実施し、再就業の促進を図る。

対象

再就業の意思のある潜在看護職員

研修日程・開催場所・内容

講義研修	平成24年1月17日～18日(2日間) 秋田県庁第2庁舎
受講者	5名
臨床実務研修	平成24年1月23日～2月末日(1日6時間、10日間)
受講者	4名
研修施設	県があらかじめ実務研修受入病院を確認し、 研修希望者と受入病院との調整のもとで実務研修病院が決定した。
	●北秋田市民病院(新規受入) ●土崎病院(4年目)
	●市立秋田総合病院(2年目) ●秋田県成人病医療センター(新規受入)

受講者背景

職 種	看護師4名、助産師1名
平均年齢	35.8歳
平均実務経験年数	6年6ヶ月
平均離職期間	7年2ヶ月

受講動機

子供が小学生や幼稚園などに達したことから、そろそろ職場復帰したいと考えている。
復帰まで考えていないが、働いていた頃の記憶をよみがえらせて働ける時に備えたい。
子供も大きくなり、今後10年後の自分を考えて参加した。

評価と課題

秋田県委託事業のため、開催時期が年度末と遅くなり、実際にナースセンター登録者で研修希望者は14名だったが、最終的に参加できた者は5名だった。

①開催時期が年度末の厳寒な時期である

- 研修参加を希望しても開催が遅いので、不安ながらも再就業している。
- 参加したいが、時期的な問題(家族・交通手段等)などで参加できない。
- インフルエンザなどの感染症が多発する時期のため、臨床実務研修にも差し支えが生じる。

②事業委託から開催までの期間が短い

- 公募期間が短く、情報を得る者が限定される。

実務研修受入病院側の配慮に感謝申し上げます。

看護職員の 多様な勤務形態 導入研修事業

開催される!

秋田県看護協会では、看護職員が辞めないで働き続けることができるように、離職防止、復職支援を行うことを**目的**に県の委託を受けて、多様な勤務形態導入支援事業に取り組んでおります。総合相談窓口設置やアドバイザー派遣と共に昨年秋には研修を実施しました。

秋田県医師会、秋田県病院協会からの後援を頂いて県内3ヶ所において実施した研修事業の様態の一部を紹介します。



対象は医療機関管理者(病院長・副院長・事務部長等)及び看護管理者(看護部長・看護副部長等)で、看護部長さん等看護職の他、県北では総務課長さん等の事務職が、中央では福祉施設の管理者の方、また、県南では病院長さん方が出席され、グループワークでは活発な意見交換が行われました。

講師に山形県三友堂病院人事企画部長 田林義則氏、新潟県猫山宮尾病院看護部長 若槻宏子氏並びに日本看護協会常任理事 小川忍氏を迎え、「ワーク・ライフ・バランス」の考え方や実践について理解を深め、現場の「お互い様」精神の大事さを再確認しました。

多様な勤務形態の導入はスタッフ確保の上からも認識しつつ、具体的な進め方において留まっている所もあるように思われ、実行情報の交換を重ねていくことが急がれると感じています。

平成24年度は、日看協のワークショップを受け入れることにしており、本事業はその準備という位置づけでもあるので、今回の参加施設の中から、来年度のワークショップへの参加者が出ることを期待しております。研修は次のような日程で実施されました。

県北

中央

県南

平成23年 10月6日(木)	平成23年 10月7日(金)	平成23年 10月8日(土)
ホテルクラウンパレス秋北	秋田県看護協会5階第一研修室	大曲エンパイヤホテル
参加者11名	参加者27名	参加者19名
16:00～ 開会・挨拶 16:10～ 講演「ワーク・ライフ・バランスの基本的な考え方」 17:10～ 先行事例の紹介「一人ひとりを大切にしていこう～小さいことをメリットにして～」 18:10～ グループワーク・助言まとめ	13:00～ 開会・挨拶 13:10～ 講演「ワーク・ライフ・バランスの基本的な考え方」 14:10～ 先行事例の紹介「一人ひとりを大切にしていこう～小さいことをメリットにして～」 15:10～ グループワーク・助言まとめ	9:30～ 開会・挨拶 9:40～ 講演「ワーク・ライフ・バランスの推進について」 10:40～ 先行事例の紹介「看護職のワーク・ライフ・バランスは採用と定着の鍵に成り得るか」 11:40～ グループワーク・助言まとめ

地区活動報告

北秋田 地区支部

北秋田地区支部長 中嶋 美枝子

「親睦交流会・看護研究発表会」

北秋田地区支部は平成22年4月に北秋田市民病院が新設されて以来、近隣の総合病院が一つだけとなり、看護協会地区支部活動は市民病院の負担が大きくなり、活動に支障をきたすのではないかと懸念致しましたが、前任の支部長はじめ役員の方々の御協力で、活動内容を低下させる事なく、現在に至っています。

会員の人数も少なく、老人保健施設等で働く看護職への働き掛けが今後の課題ですが、毎年行なっている親睦交流会や看護研究発表会は、他の施設の方々の大切な交流の場となっています。

今年度は平成23年11月12日(土)に看護研究発表が行なわれ「ハンディナースクールシステム対応マニュアルによる効果」「PHS活用による業務改善」を北秋田市民病院から、「スキップクラブの活動から」を北秋田市健康推進課からと3題が発表されました。

看護研究発表は他職種の仕事を理解する上でも大変重要です。活発な意見交換がなされ有意義な会となりました。

また、地元新聞の取材もあり、地域住民からの「看護の理解」を深める上でも広報活動になったと思います。

その後「デコパージュ石けん作り」の親睦交流会が行なわれ、作品や夢中に取り組んでいる姿から、楽しさが伝わってくると思います。小さいながら、顔と顔が見える地区支部活動が私達の地域の強みと考え、これからも頑張っていきたいと思っています。



能代・山本 地区支部

能代・山本地区支部長 工藤 あつ子

研修会開催

能代・山本地区支部では、毎年会員の資質向上・親睦と連携を深める目的で研修会を行っています。昨年度からは新たな試みとして能代・山本地区の施設に勤務されている認定看護師に講師をお願いしています。

平成22年度は、秋田社会保険病院 皮膚・排泄ケア認定看護師清水元子様「褥瘡予防のためのケア」と題して最新の褥瘡の治療方法と背抜きの大切さを教えてくださいました。

また23年度は、秋田社会保険病院 がん性疼痛看護認定看護師 野呂田新様からは「がん患者の疼痛緩和の実際」と題して、がん性疼痛の基本的な考え方、オピオイド使用のための基礎知識などを教えていただき、山本組合総合病院 緩和ケア認定看護師 小林真紀様のテーマは「緩和ケアの実際」でした。緩和ケアとはどういうケアか、定義、考え方などについて述べたあと、実際に体験された事例を挙げ、どのように介入したか紹介されました。長年看護に携わってきた私は今までを振り返る機会

となり、会場からは涙ぐむ姿もみられ感動的でした。

参加対象は会員・非会員・一般市民となっており、介護施設からの参加者も多く、質疑応答も活発に行われています。

24年度は秋田社会保険介護老健施設サンビュー秋田に勤務されている認知症看護認定看護師伊藤由紀子様「認知症は病気です～認知症を理解しケアに生かす」を予定しています。高齢化に伴って認知症患者も増加している現状では、興味深いテーマではないかと考えています。一人でも多くの方に参加していただき知識を深め実践に生かしてほしいので、今後も委員を通して広報活動を重ね、多くの方に参加していただくよう努力していきたいと思っています。



在宅 看護

シリーズ

10

厚生連あきた訪問看護ステーション



管理者 船木 久子

当ステーションのあゆみ

厚生連あきた訪問看護ステーションは、秋田組合総合病院の移転に伴い、平成12年7月に病院併設型の訪問看護ステーションとして開設しました。

開設当時は介護保険が始まったばかりで、ステーションの運営は手探りの状態でした。

看護師3人に対し利用者様無し、地域の開業医様に利用者様の紹介をお願いに廻り、ドキドキの営業初体験でした。

また、訪問看護師には、医学的な知識や判断力だけでなく、医療と介護の架け橋としての新たな役割が求められ、責任の重さを感じながら活動を始めました。

おかげさまで、今年で開設12年目、看護師：常勤4人、事務：1人になり、月に約80人の利用者様に訪問看護を提供させて頂いています。

当ステーションの特徴

当ステーションの一番の特徴は、地域の中核病院であり、がん診療連携拠点病院である秋田組合総合病院に併設されていることです。実際に利用者様の約7割が秋田組合総合病院からの指示を受けています。

顔の見える関係にある医師や看護師との連携ですので、入院治療から退院後の療養生活に不安なく移行できるようお手伝いできますし、通院中の利用者様の病状変化についての報告や対応も迅速にできます。

地域の開業医様からも、後方病院に併設されているステーションとして、信頼を頂いているのではないのでしょうか。

また、平成17年から24時間訪問看護体制を開始し、平成22年から秋田組合総合病院の訪問診療が開始になり、在宅での看取りを安心してお引き受けできるようになりました。その準備の一つとして、緩和ケアの知識の向上を図るため、看護スタッフ全員が秋田県緩和ケア研修を受けました。また、秋田市北部の緩和ケアネットワークに参加し、他事業所との交流を図っています。

当ステーションの課題

早急に解決すべき課題は、病院併設型の訪問看護ステーションとしての災害対策を構築することです。東日本大震災の際は、在宅酸素や人工呼吸器使用の利用者様に「とりあえず訪問しなければ。」と車を走らせ、数人は秋田組合総合病院と連携して入院の手はずを整えました。今後は、各利用者様についての具体的な対応策を定期的に確認し、備えて置く必要があると感じています。

永遠の課題は、現在の利用者様やご家族が安心して療養生活を継続できるように健康管理のお手伝いするという、当たり前の役割遂行を続けていくことです。

当ステーションが位置する秋田市北部は、介護サービスが充実している地域です。そのため、利用者様の多くが、訪問介護や通所系サービス、ショートステイなどを併用しています。農繁期や冬季には訪問が減り、経営にも影響をきたします。

それでも、当ステーションをご愛顧いただいている利用者様やご家族の願いは、「家でゆっくり過ごしたい。過ごさせたい。」に尽きますし、「看護師さんが来れば安心出来る。家に居るようになったら、またお願いな。」とのありがたい言葉を頂きます。

介護職の吸引・胃ろうの注入の業務拡大など、訪問看護のあり方も変化を余儀なくされる兆しがありますが、看護師の専門性を発揮しつつ、他サービスとの共存を目指して連携をすることで乗り越えていけるのではないのでしょうか。

厚生連あきた訪問看護ステーション (あきた組合総合病院内)

〒011-0948 秋田市飯島西袋1丁目1-1
TEL:018-880-3002 FAX:018-880-3037

●営業時間

月曜日～金曜日…午前8時30分～午後5時
※24時間対応体制実施

●休業日

土曜日、日曜日、祭日
1月2日、1月3日、8月14日、12月31日

INFORMATION

事務局からの連絡・報告

平成24年度 第39回 秋田県看護学会演題募集について

演題受付期間：平成24年4月2日～5月1日必着
詳細資料は、先月(12月)に各施設へ送付しておりますのでご確認ください。
沢山のご応募をお待ちしております。

事業部直通 ☎018-831-8020 FAX.018-831-8023
E-mail; a.kango.kyouiku3@jupiter.ocn.ne.jp

図書室より

今年度、図書室の利用者数は243名(2月末日現在)、
書籍の貸出冊数は335冊でした。
ご利用いただき、ありがとうございました。
当協会図書室は、図書室本来の機能に加え、会議室としての活用も多いのが特徴です。
出来るだけ多くの方々に所蔵書籍をご利用いただきたいと思います。
研修で訪れた際に、看護研究や院内研修等の文献検索に、会議の合間の休息に・・・、
どうぞお立ち寄りください。



〈日本看護協会看護研修学校からのお知らせ〉

平成23年度(第42回)より、『日本看護学会論文集(電子版)』を「JNA会員ダイレクト」、「最新看護索引Web」に掲載します！
会員の皆様には無料で全10領域の『論文集(電子版)』を閲覧・ダウンロードできますのでご活用ください。
論文集の電子化にともない冊子販売は行いませんのでご了承ください。

図書室利用に関するお問い合わせ先
事業部教育研修係 ☎018-831-8020

平成24年度 看護研究支援希望の募集

地域における看護研究支援について、引き続き24年度も募集します。
応募期間：平成24年3月5日(月)～4月13日(金)です。
会員の皆様からの多数の応募をお待ちしています。
今まで研究支援を受けた論文が日本看護学会で3題、日本母性衛生学会で1題、
秋田県看護学会で2題発表され、実りある成果が得られています。

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

平成23年度も終わりを迎え、新たな年度の始まりがそこまで来ています。少しでも明るい年になることを望んで新年度事業に取り組みたいと思います。この最終号は事業の報告を主にまとめておりますが、会員の皆様の良い刺激となる情報を提供できておりますでしょうか。沢山の意見や声をいただければ幸いです。
また、東日本大震災から早1年となりますが、問題が山積したまま、復興もおぼつかない現実があります。私達は被災地のいたみを分かち合い、1日でも早く復興が進むよう一人一人が出来る事を考えて協力していかなければと思います。(藤原 記)

看護あきた Vol.107 平成23年度 4号

Nursing Akita



発行日/平成24年3月1日
発行責任者/(社)秋田県看護協会 会長
発行所/(社)秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172
印刷所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577